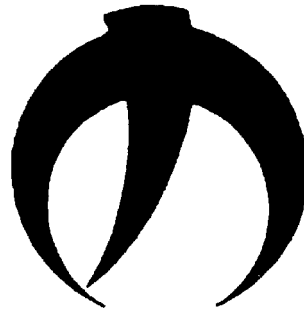


平成19年度 国際交流視察団報告書



平成19年9月 奈井江町

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 国際交流視察団日程 | 1 |
| 国際交流視察団名簿 | 1 |
| ハウスヤルビ町を訪れて 篠田 茂美 | 2 |
| ハウスヤルビ町を訪問して 大関 華奈 | 7 |
| ハウスヤルビ町を訪問して 野口 絢華 | 10 |
| ハウスヤルビ町を訪問して 中林 立 | 14 |

Japanilaiset saivat tietopakettin koulukiusaamisen ehkäisemisestä

Hausjärvi isännöi vieraita ystävyyskunnastaan Naiesta

ELINA KORKEAMÄKI

HAUSJÄRVI | Hausjärvi on isännöinyt ystävyyskunnastaan Naiesta Japanista saapunutta neljän hengen seuruetta perjantaista lähtien.

Maanantaina yläasteikäiset tytöt Ayaka Noguchi ja Kana Oozeki, lukiolaispoika Ryyu Nakabayashi ja Naien kunnan virkamies Shigemi Shinoda tutustuivat suomalaisen koulu-elämään Hausjärven yläasteella ja lukiossa.

Vieraille esiteltiin etenkin suomalaista oppilashuoltoa ja tuki-oppilastoimintaa, sillä jo etukäteen japanilaiset olivat toivoneet tietoa koulukiusaamisen hallinnasta Suomessa. Japanissa koulukiusaaminen on viime aikoina ollut tapetilla, koska taisteleva opiskelupaikoista on äärimmäisen kovaa, ja kilpailuhenki saa oppilaat nousemaan toisiinsa vastaan.

Japanilaiset esittelivät puolestaan hausjärveläisille oppilaille omaa noin 7 000 asukkaan kuntaansa, joka sijaitsee Hokkaidon saarella.

”Minusta ihmiset ovat olleet valoisia ja iloisia.

Nuoret vieraat viettävät vii-



Koulussa kierroksella. Japanilaiset Ayaka Noguchi (vas.), Kana Oozeki (takana), Ryyu Nakabayashi ja Shigemi Shinoda tutustuivat kielustudioon Hausjärven lukiossa. Taustalla myös isäntäperheiden nuoret Kaisu Hinkkanen (vas.), Teemu Nieminen ja Anna Kerola.

kon mittaisen matkansa kotimajoituksessa hausjärveläisperheissä.

– Olen nähnyt täällä paljon outoja ja erilaisia asioita. Aina-kin kaupunkiympäristö näyttää erilaiselta kuin kotona, sanoo Noguchi.

– Minusta ihmiset ovat olleet valoisia ja iloisia, lisää Oozeki.

Saunomista ja uimista kaikki odottavat innolla, mutta suomalainen ruoka jakaa joukon mielipiteet.

– Hyvää, toteaa Nakabayashi, ja saa tytöiltä oudoksuvia katseita.

– Erilaista, määrittelee Noguchi diplomaattisesti. Virkamies Shinodalla ovat kiin-

nostaneet koulukiusaamisen ehkäisyn lisäksi maaltapako, joka on viime vuosina koetellut maatalousvaltaista Naiea, sekä energiakysymykset.

Shinodalle on selvitetty muun muassa suomalaisten kuntayhtymien toimintaa, ja lauantaina hän seurasi mielenkiinnolla yksityisen hakelämpökeskuksen

esittelyä Hausjärvellä.

Hausjärven ja Naien ystävyyskuntatoiminta alkoi 1990-luvun puolivälissä, jonka jälkeen vierailuja on tehty puolin ja toisin vuorovuosina. Aluksi matkoilla kävi enemmän virkamiehiä, mutta viime vuosina kunnat ovat halunneet panostaa enemmän oppilasvaihtoon.

【今回のハウスヤルビ町訪問は、地元新聞紙でも大きく報道されました】

国際交流視察団訪問日程（実績）

平成19年8月23日（木）～8月31日（金） 9日間

| 目次 | 月日 (曜日) | 内 容 | 備 考 |
|----|-------------|---|----------------------------|
| 1 | 8/23 (木) | 10:30 出発挨拶（役場） 13:50 新千歳空港発 15:25 成田国際空港着 成田エアポートレストハウス（宿泊） | |
| 2 | 8/24 (金) | 8:00 成田エアポートレストハウス発 11:00 成田国際空港発 15:20 ヘルシンキ空港着 18:30 歓迎夕食会（リヒマキ市、ホテル） 生徒...ホストファミリー宅（5泊） | 時差 6時間 現地時間 |
| 3 | 8/25 (土) | (篠田) 9:00 ヤーコラ前議長宅訪問 13:30 野外劇場視察、リュティラ地区視察 (小学校、幼稚園、保育所、認知症の家、 ルーテル教宣施設)モンニ地区(新住宅地) 視察、トルティーラ教育長宅訪問 | (中林、大関、野口) ホストファミリーとの交流 |
| 4 | 8/26 (日) | 8:45 石の教会（タンメラ）視察、国立公園（散策） 保育所、小学校視察 トルティーラ教育長サマーハウス訪問 | ホストファミリーとの交流 |
| 5 | 8/27 (月) | 7:40 中学校・高校訪問（奈井江町の紹介） 13:00 役場表敬訪問（奈井江町の紹介） サウナ・パーティー | |
| 6 | 8/28 (火) | 8:45 小学校、図書館訪問 18:00 ハウスヤルビ町議会傍聴 | ホストファミリーとの交流 |
| 7 | 8/29 (水) | 8:45 小学校、教会（ハウスヤルビ町）、特殊学校訪問、郷土博物館訪問、レヒティマヤ訪問 お別れ会（町キャンプ場） 全員 | ホストファミリーとの交流 |
| 8 | 8/30 (木) | 9:00 ヘルシンキ市内視察 大聖堂、シベリウス公園、教会、市場等 17:20 ヘルシンキ空港発 | |
| 9 | 8/31 (金) | 8:45 関西国際空港着 11:10 関西国際空港発 13:00 新千歳空港着 15:20 役場着、帰町報告 | 日本時間 |

視察団名簿

| | |
|--------|-------------------|
| 篠田 茂 美 | 奈井江町議会 事務局長 |
| 中林 立 | 奈井江商業高等学校 情報処理科3年 |
| 大関 華 奈 | 奈井江中学校3年 |
| 野口 絢 華 | 奈井江中学校3年 |

ハウスヤルピ町を訪れて

篠田茂美

子ども達を主体とする、国際交流訪問団の派遣は、前回の平成17年に続き2回目ですが、私をはじめ子ども達も初めての海外ということで、期待と不安や緊張がありました。10時間余りのフライトはこれまでも経験がなく、疲れが見受けられました。

しかし、フライトも終わりに近づきヘルシンキ近郊の町並みが眼下に広がると、森と畑、住宅街があちこちに点在する風景は非常にのどかな感じを第一印象として与えてくれ、これからの交流にも安堵が漂い始めたところでもあります。

ヘルシンキ国際空港には、ハウスヤルピ町のトルティーラ教育長さんと通訳でお世話をいただいたフィンランド空港に勤めている宮部氏が出迎えてくれました。

空港の外に出ると機内に長時間いたせいか、空気がおいしく感じ、一路宿泊先になるリヒマキ市のホテルに向かいましたが、車中から見える風景はなんら北海道とは変わりなく、異国の地に来た感じがしないほど違和感がありませんでした。



ただ、何か違うなというのは白樺と赤松が混生しているところだけであり、気候は北海道の秋の気候であり、とても自然環境も良く、空気もおいしい素晴らしいところだと思いました。

車中種々町の様子等を説明いただくとともに子ども達も訪問の目標等を聞かれ、それぞれ目標を話しながら緊張感をほぐしていただきました。

ホテルに着くと、これからのスケジュールについて説明をいただきましたが、出発直前に届いたスケジュールと一部変更になっている部分があり、今晚からホストファミリー宅に子ども達は向かうとのことで、時差ぼけの中ビックリしましたが、今晚開かれる歓迎会の出席者が次々とみえられ、紹介いただき、歓迎会が始まり、子ども達はお世話になるホストファミリーの皆さんと一緒に席につきました。

皆さんに暖かく迎えていただき、また、心遣いもいただき子ども達は帰国前日まで、ホストファミリーのもとで種々体験し、同年代の子どもと共に学校に通うこととなり、親善交流が始まりました。

私は、トルティーラ教育長の案内で、各公共施設等を案内していただき、そこで感じたことを報告いたしますが、子ども達はそれぞれホストファミリーと共に生活した体験をそれぞれ報告いたします。

ハウスヤルピ町の近況

ハウスヤルピ町は、大きく4つの地区で構成されており、新しい地区であるモンニ地区に新たな若い世代の住民が、住宅を新築して住み着くようになり、人口が1%程度増え、現在8,575人とのことであります。

このように、人口が増えるとは予想していなかったとのことであり、幼稚園や学校の新・増築を対応しているとのことであります。

このモンニ地区は、ヘルシンキにも近く交通の便が良く、また、国が低所得者の税金を下げていることやローンが4～5%程度で、従前の17%に比べると非常に低いことが、若者の住宅新築につながっていることと思われるとのことであります。

ただ、新しい住民は種々要望等も寄せており、これに全て対応出来かねない面もあり、課題があるというお話しでした。

この地区だけでも、将来は8千人規模になるのではと推測しているとのことであります。

フィンランドも国は大きな街を作りたい考えで、2025年までどのような考えを持っているか、各自治体に調査が来ており、行政では各種分野における分析推計を行い、どのように歩いていくか検討し、議会の理事会に諮り、当面独自の道を歩む方向で、訪れていた28日(火)午後6時から議会本会議が開催され傍聴をさせていただき、冒頭議長から紹介され議場で挨拶をさせていただきました。

議会では、町長から分析結果の説明を受け、質疑・意見等がありましたが、今後も自治体間連携を深め、当面独自の道を歩むことに決定したところであります。

学校

学校は、小学校が8校、中学校が1校、高校が1校ありますが、今小さな小学校4校を1校に統合する計画であるとのことであります。

また、スクールバスは、3km以上の児童生徒を対象としておりますが、経費がかさみ車の利用等も現在検討しているとのことであります。

数校の学校を訪問させていただきましたが、1クラス20～25名で、教育環境整備も充実しておりました。



何が充実しているかと一番感じたことは、技術・家庭科の分野で、子ども達が選択し、自分の好きな例えば洋裁であれば、中学卒業時にはワンピースを作成できるなど、技術では車の動く仕組みを学んだり、小学校の時点から木工等各種技術部門を学び、将来自分に適している仕事は何かを模索できるような授業体系であると感じました。

当然それに伴う指導する教師の配置や、機材、工具等や教師の仕事場の環境も整備されていることです。

進学を希望する者は、高校、大学と進みますが、勉強より技術を身に付けたい者は、各種学校に進み技術を身に付けていくというような流れで、中学卒業後の進路は、6割が高校、4割が専門学校という状況にあるそうです。



教育

国は、年1回子ども達に国の指導方針が習得されているかどうか、テストを実施させ、この結果により、教師に教え方の不備はないか等を分析し、最終的には校長が判断することになるそうです。

また、基準に達していない子どもの要素としては、家庭に問題があったりする場合は、多いとのことでもあります。

一般より低いレベルの児童生徒は、小さいグループという形で同レベルの児童生徒8人程度で教室を作るとのことでもあります。

これは、国の8割が実施しており、子ども達は、誰も解からないとのことでありました。

毎週月曜日に集まる。メンバーとしては、福祉、警察、医師、カウンセラー等で、担任教師からの説明を受け、問題（お金の問題）等を協議し解決に向けていくとのことでもあります。

また、大きいグループ（毎月1回。家の問題等）や夜のグループ（仕事は何をやっているか等）等もあり、それぞれ情報を共有し問題解決にあたってゆくとのことでもあります。

親に問題がある場合、子どもを施設に入れる事もあるとのことでもあります。

いじめ対策

フィンランドでは、「いじめ」という表現ではなく、「いたずら」という表現で国から指導され、これを基に各学校でマニュアルを1970年頃から作り、実施しているとのことです。

基本は、全ての子ども達が学校に来られるようにすることであり、問題が小さいうちに解決に向かうことでもあります。

トルティーラ教育長に不登校児童生徒は、何人くらいいますかとお聞きしたところ、4～5人くらいとのことでした。

原因は家庭の問題もあり、種々のようでもあります。

中学校では、小学6年生が春と秋に1日体験入学をし、学校の様子を体験してもらうのと、教師と話し合いもし、スムーズに入学できるようにしているとのことです。

いたずら等問題のある生徒には、特別な計画を作り、教育長が判断し、専門先生の診断も受けるそうです。

カウンセラーも配置されており、主に中学校を毎週1日訪問し、子ども達の相談も受けるが、福祉の問題が多いとのことであり、他とのネットワークや家とも連絡を執り行い対応しているとのことです。

議会

議員定数は35名。議会の構成は、理事会と5つの委員会で構成されているそうです。

理事会は、議会で決まった詳細を検討するとのことです。

委員会は、地域委員会、福祉委員会、教育委員会、社会教育委員会、建設委員会があります。

議会は月1回、理事会は月2回開催されているとのことです。

今回、訪問時に議会が開催され、傍聴させていただきましたが、議長の横に町長と議会事務局の職員が着席しており、説明員として職員は出席していない状況であります。



今回は国から合併問題に関する考え方についての大事な案件であり、事前に理事会でも議論し、議会が開催されたところでもあります。

現在も4つの町で、秋まで議長会議が開催され、検討しているところではありますが、今月国に回答するため審議されたところでもあります。

町長からパソコンを活用して、各分野の町の推計値等の説明を行ない、合併しないで今後も自治体連携を推進して行きたいと説明し、各議員から質問意見等が出され、最終的に議決したところでもあります。

議会は、自由討議の形で行われ、今回は大事な案件でもあったため、副町長も傍聴に来ておられましたが、ある質問で町長が答弁しましたが、議長から副町長にも説明するよう求められ、答弁する場面もありました。

こちらの議会とは、違う形式で行われていました。

おわりに

自然をそのまま残せるものは残し、自然環境の保護にも努められている素晴らしい国であります。そこに住んでいる人もやさしく思いやりのある方々で、日本人の恥ずかしがりやがこの国の人もどちらかというと同じように、シャイな部分があり、これが親善交流が長く続いている要因でもあるのかなと、ハウスマルビの方が言うておられました。

本当に、暖かく迎えていただき、子ども達もホームステイ主体で様々な体験をさせていただき、初期の目標も達成することができたと思います。

ホストファミリーの皆さんには、初日の歓迎会から最後のお別れ会まで、子ども達が大変お世話になり、月曜日にラマさんに子ども達大丈夫かなと聞くと、「大丈夫。言葉の不安もあるけど、最後は別れるとき泣くよ」と言われましたが、本当にその通りとなり、子ども達にも大きな体験となり、これからの人生の糧となる事と思います。

私も、今回の体験を基に今後のまちづくりに役立てていきたいと考えています。



ハウスヤルビ町を訪問して

大 関 華 奈

私は、フィンランド・ハウスヤルビ町視察団員募集に応募し、ハウスヤルビ町を訪問させていただくことになりました。行き10時間、帰り9時間はすごく長いだろうな・・・と思っていましたが、行きも帰りもあまり長くは感じませんでした。

フィンランドに着き、ホテルでこれからの日程を確認していくと、予定ではホームステイは2日間でしたが、なんと、到着した日から6日間ということを知りました。驚きましたがすごくワクワクしました。

私がホームステイするお家の家族の皆さんが迎えに来てくれました。そこで初めて家族の方とお会いしました。みんな笑顔で迎えてくれました。そして、とても優しく接してくれました。すごく安心しました。

私がホームステイした家の長女のアンナは、去年、奈井江町を訪問していました。とっても日本語が上手で驚きました。そのため、とても助かりました。

ホームステイ先の家族構成は、お母さん、アンナ(18)、サーラ(16)の3人です。そして、お父さんと弟のエーロです。みんなすごく陽気で毎日がとても楽しかったです。



《ホームステイ1日目》

ホテルからアンナの家へ向かいました。

家に着くと、部屋に案内してくれました。アンナとサーラの2人部屋でした。日本の部屋と大きな違いはなく、日本にいるような気分でした。

少し落ち着くと、フィンランドのプレゼントをいただきました。私も日本から持っていったお土産を渡しました。お母さんに「ちょうちん」を渡すと「ち

「ようちん大好き！」と言ってくれました。日本のようちんを知っていることに驚かされました。「下駄」も渡すと、嬉しそうに履いて歩いていました。「ようかん」を渡すと「食べよう！」と言って、みんなで台所に向かいました。

みんな興味津々で食べてみると、不思議そうな顔をして私を見ました。そして、「これはキャンディ？」と聞いてきました。この質問には少し戸惑いましたが、何とか説明しました。でも、喜んでくれたので安心しました。

《ホームステイ 2 日目》

ヘルシンキで買い物をした後、遊園地に行きました。

フィンランドの遊園地のジェットコースターは日本よりもレベルが上でした。みんなで楽しむことができました。

ヘルシンキまでは列車で行きました。列車内におもしろいおじさんがいて、言葉はわかりませんが、みんなの顔の表情や素振りなどを見ていると話の内容が大体わかったような気がしました。そのおじさんの話がおもしろくて、みんなで大爆笑しました。たとえ言葉がわからなくてもこんなに笑える。素晴らしいことだなと思いました。

この日、アンナの家のあるサウナに一緒に行きました。結構長い時間入っているの、お風呂に入ったみたいにポカポカして気持ち良かったです。

その日の夜、アンナは日本の「ジブリ」が大好きでたくさんのDVDを持っていて、そのジブリを見てから寝ました。



《ホームステイ 3 日目》

この日は、アンナの家のある隣人のヤニタが遊びに来ました。

私が来るのを楽しみに待っていたと聞いて、とても嬉しかったです。すぐに仲良くなって、私が日本から持っていったお手玉をして遊びました。私は日本でお手玉を練習していききました。その成果がでて、うまく披露することができました。

その日の夜、アンナは私に日本の漫画の本を見せてくれました。すごくたくさん持っていました。英語やフィンランド語、日本語などでした。私には日本語の漫画を見せてくれました。日本の漫画の話題で、どんな漫画が好き？最近こんな本がでたよね！などたくさん話すことができました。

アンナの将来の夢は絵を描く仕事と言っていました。アンナはすごく上手で、そのための努力もしていて、きっと夢が叶うだろうなと思いました。そして、見習わなくちゃいけないなとも思いました。

《ホームステイ 4 日目》

この日は、学校見学をしました。

とても設備が整っていました。高校と中学校は向かいにあって、授業によって設備が整っている方の教室を使っているそうです。中学生と高校生は学校を行き来しているそうです。

その後、役場にも行きました。すごく立派なところで構造なども変わっていて、興味が湧きました。

この日の夕方はフィンランド式のサウナに入りました。サウナの後、湖に飛び込んでしまいました。冷たかったけど気持ち良かったです。

《ホームステイ 5 日目》

この日は、アンナと「2人乗り自転車」で学校に行きました。朝はとっても寒かったです。

学校では、美術の時間に習字を披露しました。「友情」と書きました。美術の先生と生徒たちは「友」という字を書きました。みんな初めてとは思えないほど上手に書いていました。リクエストで自分の名前の「華奈」も書きました。みんな喜んでくれて良かったです。

家に帰るとアンナに「習字書いて!」と言われました。アンナからのリクエストで「桜・愛」を書きました。日本の言葉をたくさん知っているなと思いました。

アンナは日本が好きで、たくさんの日本語を話してくれました。自分の国の言葉を話してくれるのは、とても嬉しいことだなと思いました。だから、私もフィンランド語をなるべく使うようにしていました。ホームステイ 4 日目になるとたくさんのフィンランド語が話せるようになりました。



《最終日》

この日も学校へ行きました。学校ではみんなで折り紙をしました。みんな楽しそうに折っていました。

夕方、最後のサウナパーティをしました。サプライズゲームで、新聞紙で作った「やりなげ」、「むかで」、「マッチ遊び」をしました。マッチ遊びは想像以上に難しかったです。

それから、サウナ、湖、サウナ、湖と繰り返してました。そして夕食を済ませ、1人一言ずつ挨拶をし、お別れをしてリヒマキのホテルへ向かいました。とても寂しい気持ちになりました。

フィンランドを発つ日。リヒマキのホテルから空港へ向かいました。アンナがお見送りに来てくれました。そこで最後のお別れをしました。

毎日楽しくて楽しくて、ずっと笑っていました。

残念だったのは、フィンランドの福祉施設を訪問できなかったことです。でも、たくさんを知ることができました。たくさんの人のお世話になりました。みなさんの協力があり楽しく視察してることができました。

このような素晴らしい機会を与えていただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

ハウスヤルピ町を訪問して

野口 絢華

8月24日から7日間、私は奈井江中学校の代表としてフィンランド・ハウスヤルピ町を訪問してきました。

朝11時頃、飛行機に乗り現地時間の15時半頃フィンランド空港に着きました。約10時間半の飛行機での移動は長かったです。

フィンランド空港に着くとトルティーラ教育長さんと宮部さんが私たちを迎えに来てくれていました。タクシー乗り、その日は歓迎会があったのでホテルへ行きました。その途中、外を見ていると道路には制限速度120km/hの標識があり、普通の道路でもこんなにスピードを出せるのか！？と驚いていたのですが、そこは普通の道ではなく高速道路でした。高速道路といっても料金はかからず無料でした。

ホテルに着くと教育長さんから1週間のスケジュールの説明がありました。私たちは、1日目はホテルに泊まり、次の日からホームスティと聞いていたのですが、ホームスティは今日からと聞かされ、すごく驚きました。そして、説明によると1週間ずっとホームスティということで少し不安になりました。教育長さんの説明が終わり少し経つと、ホームスティ先の家族がどんどんと歓迎会のために集まってきました。

私のホームスティ先はヒンカネン家です。カイス(16才)とラウリ(12才)ローベ(4才)の五人家族です。



歓迎会が終わり、私たちは各家庭へ行きました。車はやはり左ハンドルで、乗っていて少し違和感がありました。車内で色々と話しかけられたのですが、なかなか聞き取れず、これから1週間やっていけるか本当に不安になりました。

色々話しているうちに家に着きました。おばあちゃんの家に行くということは聞き取れていたのです、おばあちゃんの家だとわかりました。おばあちゃんは福祉施設で暮らしているということも話してくれました。

そこまではよかったのですが、家に入るといきなりバスタオルを渡され、焦りました。私に、カイスとお母さんが話しかけてきます。けれど、私は聞き取れません。そこで登場、電子辞書。でも、私の使い方が悪かったのか、あまり役にたちませんでした。

カイスは色々な単語に変えて話してくれました。そのおかげでわかりました。二人は「長いフライトで疲れただろうからシャワーを浴びてリフレッシュしておいで」と言っていたのです。そうしてシャワーを浴び、カイスの家へ行きました。



もうその頃には8時30分くらいだったのですが、まだ明るく外で子供たちが遊んでいました。カイスの家は農家をしており、家の周りは麦畑と山？でした。家に着き、ローベとラウリに挨拶をした後、日本から持ってきたお土産を渡しました。扇子にせんべい、折り紙、箸、カップヌードルです。扇子は次の日もまた次の日も使ってくれていました。この日は疲れていたため寝ました。

2日目、ヘルシンキに行きました。ヘルシンキでは買い物をしたり、遊園地に行ったりして遊びました。

この日は、初体験フィンランドのサウナでした。フィンランドには、家にサウナがある家が多く、カイスの家のサウナは工事中だったため、おばあちゃんの家サウナに入りました。フィンランドでは日本と違い、水を暖めた石にかけます。水をかけた後の水蒸気が熱く大変でしたが、でもなぜか気分がスッキリしました。私はフィンランドのサウナの方が好きです。フィンランドのサウナの方が入りやすい気がするし、入った後スッキリします。

3日目、この日は、まず、ハンターミュージアムに行きました。そこはハンターの狩りに使う道具の歴史があったり、鹿などの剥製が置いてあったりしました。

そのあと夕食の食材を買いにスーパーへ行きました。スーパーに行って驚いたのは、ペプシがこんなに置いておいてどうするのだ！？というくらい高く積み上げられていました。スーパーでお米を買い、今晚の夕食はそのお米を使った料理でした。それを箸を使って食べました。みんな意外と上手でビックリしました。

夕食を食べた後、オペラを聞きに行きました。休憩時間になると会場のみながどこかへどんどん行きます。私もカイスに「Tea Time、Tea Time」と言われ、ついて行きました。するとそこにはコーヒーとパイがありました。それを食べながらラマさんと話をしました。一日中、英語しか話していなかったのに、日本語がとても懐かしく感じました。オペラは知っている曲が何曲もあり、楽しかったです。その日は疲れてすぐ寝ました。

4日目は学校見学がありました。学校の中に入ると中学校とは思えない光景が広がっていました。学校に制服はなく、みんな私服でした。そして、ピアスをつけたり化粧をしたりするのもOKで、携帯電話の持ち込みもよく、お菓子を食べている人もいました。



それと驚いたのは、家庭科室や技術室の設備の充実さと綺麗さでした。学校の掃除は業者の人がやるそうです。家庭科室は清潔感が漂っており、奈中とは違いでした。技術室もここは工場かと思うくらい色々な機械がありました。

そして、フィンランドのいじめの対策について説明を受けたあと、奈井江町と学校の紹介をしました。

この日は学校のほかに町役場へも行きました。ハウスヤルビ町の町長さんに

も奈井江町と学校の紹介をした後、役場内を見学させていただきました。

この日の夕方にはサウナパーティがありました。この日はフィンランドでも珍しいというサウナに入りました。サウナに入った後、湖に飛び込むのがフィンランド流です。私もサウナに入った後、走って湖へ行き、湖に入りました。湖は深く、足がまったくとどかず溺れかけました？溺れました。溺れたけどすごく楽しかったし、溺れたこともいい思い出となりました。

5日目です。今日も学校です。学校へはスクールバスで行きました。スクールバスの時間は7時20分ですごく眠たかったです。けど、外へ出るとすごく寒く、一瞬にして目が覚めました。

学校では、音楽の時間に「さくらさくら」をフルートで演奏しました。そのあと、生徒のみんなと一緒に曲を吹きました。私はフルートです。ほかの生徒は歌ったりギターを弾いたりドラムを叩いたりと自由でした。すごく楽しかったです。日本の音楽の授業もこんな感じだといいなと思いました。

この日でホームステイは最後でした。夕食はカイスの家の暖炉で焼いて作ったウインナーとポテトです。すごく美味しかったです。最後に家族全員で写真を撮りました。この日は寝るとき「good night」、「ヒュヴァーユオタ」フィンランド語「お休み」と言ってから寝ました。もうお別れなのかと思うと少し寂しくなりました。



6日目、この日も寒かったです。この日はお別れ会のサウナパーティがありました。サウナに入ったあと、各家族も集まって食事をしました。ここでカイスたちとはお別れです。約1週間通訳なしで生活していると、だんだん英語も聞き取れるようになってたり、なんとなくで分かり合えるようになってきました。別れるときはすごく寂しかったです。けど、カイスは来春日本に来ると言っていました。カイスとアンナとはE-mailを交換しています。これからも続けていけたらいいなと思っています。

最後に、このようなすごく貴重な体験をする機会を与えてくれた町長さんをはじめ、役場やスオミクラブの方々、そしてホームステイ先の家族の皆さん、本当にありがとうございました。

ハウスヤルビ町を訪問して

中 林 立

僕たちは、8月23日から31日までフィンランドに行ってきました。僕は海外に行くのは初めてだったので、少し不安がありました。

飛行機はヘルシンキまで10時間くらいでした。ずっと座っていたので、とても疲れてしまいました。

ヘルシンキに着くと、すぐに車でホテルに行き、ホームスティ先の家族やハウスヤルビ町の町長さんなどと一緒にごはんを食べました。そこで色々話をしてくれてくれたので、そこで不安はなくなりました。

そして、ごはんを食べ終わるとそのままホームスティ先の家に行きました。ホームスティをさせてもらった家は5人家族で、去年、奈井江に来たティーム君の家でした。



土日には、ヘルシンキの町に遊びに行ったり、ハウスヤルビ町を自転車で回ったりしました。ハウスヤルビ町は空気がおいしく自然の豊かな町で、とても気持ちよかったです。

月曜日からは学校だったので、ティーム君と一緒に車で学校に行きました。学校は、中学校と高校が同じ場所にあり、中学校のときから選択授業が多く、自分のしたい授業をしていて、とても楽しそうに授業をしていました。高校では、色々な国の言葉を習っていたので、とてもびっくりしました。

僕も一緒に授業を受けて、中学生と技術の勉強をしたときには、とても楽しかったです。でも、学校でフィンランド野球をやる予定でしたが、雨でできなかったのもとても残念でした。

僕もこんな学校なら楽しく授業を受けることができました。

そして、フィンランドで有名なサウナパーティも2回やってもらいました。1回目は、スモークサウナというサウナで、フィンランドでもめずらしいサウナでした。とっても気持ちよかったです、湖がとっても寒かったです。2回目は、ホームステイ先の家族や町長さんなどと別れる日にやりました。サウナはとっても気持ちよくて、この日も寒かったです、湖に飛び込んで泳ぐことができました。

別れるときは、ホームステイ先の家族のみなさんが本当にやさしくしてくれていたのも、もっともっとハウスヤルビに居たいという気持ちになりました。ありがとうございました。

この訪問では、みなさんがやさしくしてくれたので、とても楽しい訪問になりました。でも、もっと奈井江の良いところを伝えればよかったと思います。

フィンランドの方々は、些細なことでもよく「ありがとう」と言っていたので、日本もこのようなところを学べば良いと思います。僕もこんな風になりたいと思いました。

また、ハウスヤルビに行きたいと思います。本当にありがとうございました。

